

## 研究主題 進路指導の実態調査・研究及び就業体験・学習会等の企画・運営

### I 団体の概要

東京都内にある都立肢体不自由特別支援学校 18 校及び、筑波大学付属桐が丘特別支援学校・新宿区立新宿養護学校の進路指導担当教員約 30 名で構成し、年に 7 回の協議会にて、進路指導上の課題検討や情報交換を行っている。また、就業体験や学習会の企画・運営や進路指導とキャリア教育に関する調査・統計も行い、関係諸機関との連携を図っている。

### II 研究の目的

- ・進路指導に関する課題の解決や情報共有・共通理解を図る。
- ・就業体験等を企画し、進路先開拓とキャリア教育推進に資する。
- ・諸調査の成果を活用し、関係諸機関と共に進路指導を推進する。

### III 研究の内容

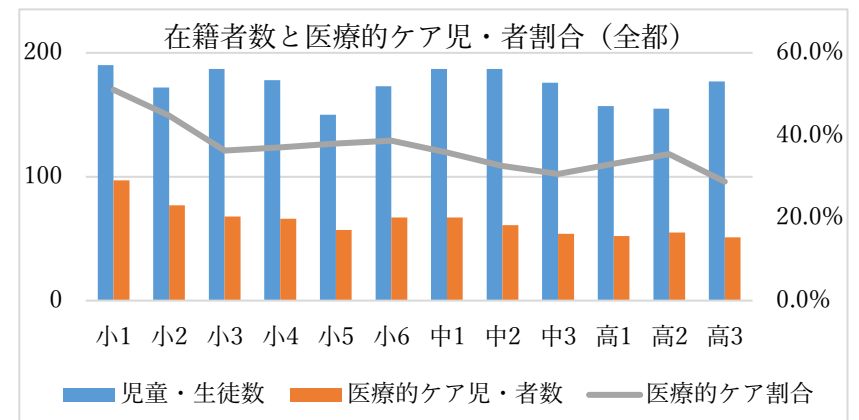
- 1 各校進路指導の取組みに関する情報交換
  - ・会場及びリモートによるハイブリッド開催
  - ・肢体不自由のある児童・生徒への進路指導に関する専門性の共有
- 2 各種調査
  - ・地域別在籍者数、卒業生進路実態、医療的ケア実施施設の実態調査
  - ・多様な学び方や働き方に関する調査・研究
- 3 就業体験
  - ・企業のCSR活動を活用した共同企画
- 4 在宅就労に関する調査・研究

### IV 実践事例

#### -1 各種調査「地域別在籍者数」

平成 23 年度からほぼ現在の形で調査を開始し、東京都内の肢体不自由特別支援学校における児童・生徒の在籍状況と医療的ケアの有無を学年別に捉え、進路指導の充実や、進路指導担当者の地域把握の基礎資料として使用しているものである。

令和 4 年度の調査では、従来の 5 分類（①全都児童・生徒、②区部、③多摩地域、④都外、⑤施設入所）に加え、新たに「⑥ブロック毎の集計」を導入し 6 分類とした。これにより、本調査が進路指導担当者にとって、区市町村単位によらない地域のニーズを大きく捉えることに役立つものとなり、児童・生徒に対しては、地域資源を基盤とした豊かな暮らしを実現することに資するものとなった。



## -2 就業体験「日本マイクロソフト株式会社オンライン職場見学会」

日本マイクロソフト株式会社及び日本ヒューレット・パッカート合同会社の協力の下、中学部生徒のキャリア教育の機会としての職場見学会を実施して、平成30年度から5年目となる。コロナ禍でのリモートによる実施も3回目となった。

当日は15校から生徒約60人が参加し、会社の進行の下、見学やグループワークなどに取り組んだ。

今年度は一人一人が「会社」を立ち上げ、会社をイメージした「ロゴ」を作成し、班ごとに「私たちの街」を作った。



## -3 就業体験「キャリア・メンタリング・プログラム」

ゴールドマンサックス証券株式会社の協力の下、高等部生徒のキャリア教育の機会として実施し、今年度は会社訪問による対面と各校から参加するリモートの2回の実施とした。

当日は13校から生徒約20人が参加し、会社の進行の下、会社見学やアイスブレイクの後、キャリア・メンタリングなどに取り組んだ。

## -4 在宅就労に関する調査・研究「学習会」

在宅就労の先進事例として社会福祉法人東京コロニーから講師を招き、法人の事業や職務の実際などを学んだ。

当日の様子はオンデマンドにて本協議会に参加する各校進路指導担当者が視聴した。

## V 研究の成果と課題

研究の成果として、次の4点である。

- ①「情報交換」ではコロナ禍での校内指導体制の継続が難しい中、ハイブリッド開催及び会議のアーカイブ配信により、情報交換が活発にでき、専門的指導を持続させることができた。
- ②「各種調査」では先のように従来の調査をより効果的なものに整理することで、進路指導担当者が地域や全都的な統計を根拠として職務にあたるできるようになった。
- ③「就業体験」では社会の感染状況を鑑みながら実施方法を検討し実施した。企業等で活躍されている方々との交流の中で、卒業後の生活イメージを広げたり、自己の課題を見付けたりと、参加生徒一人一人にとって貴重な契機となった。
- ④「在宅就労」では学習会のほか事例研究も進み情報の蓄積が進んだ。今後の課題は、専門性の向上、調査の更なる活用、在宅就労の実現に加え希望進路の実現、若手育成などである。

### <連絡先>

団体名		東京都肢体不自由特別支援学校進路指導連絡協議会
代表者	所属	東京都立小平特別支援学校
	職 氏名	校長 阿部 智子
	連絡先	042-342-1671
事務局	所属	東京都立小平特別支援学校
	職 氏名	主任教諭 宮崎 卓矢
	連絡先	042-342-1671